

北見市常盤町で個人が所有する鉄道車両群。右上が銀河線線路跡地



## 北見の歴史感じられる場に

# 銀河線跡地に鉄道公園

北見の市民グループ・ふるさと銀河線沿線応援ネットワークが、北見市常盤町の銀河線線路跡地の隣で個人が保存している鉄道車両八両を活用した鉄道公園の整備を構想している。市が所有する線路跡地や車両検修庫も生かす内容。十一日にこれらの見学会を開き、市民の関心を高めて市に働きかけていきたい考えた。(熊井君予)

### 沿線応援ネットワークが構想

車両は、今年六月に内訳は、雪かき車と九十四歳で亡くなった車掌車が各二両、除雪丹尾一男さんが一九八〇年用ディーゼル機関車、七年の国鉄民営化前後の急行型ディーゼルカに払い下げを受け、自一、郵便車、有蓋緩急宅敷地に保存していた車(車掌室が付いた貨物車)が各一両。除雪車、自宅前を通る線路や郵便車は全国的にも希少。急行型ディーゼルカは二重窓を採用度ほど塗装して手入れしている。もってきた。現在は遺族が引き継いでいる。車両群と、市が所有す

ある北見ハッカ記念館とも隣接する。鉄道遺産と併せて、北見の歴史を感じられる一画に「力」を込めている。見学会は「オホーツク鉄道史セミナーと鉄道遺産見学会」として午後一時半からきたみらい農協北見支所(北見市中ノ島町一)で開く。セミナーでは北海道ちほく高原鉄道元事務の熊谷祐三さんが銀河線の歴史を話す。資料代五百円。

## 個人所有の車両活用

「二帯は、産業遺産で、問い合わせは応援ネットワークの長南進一さん ☎ 0900・9524・9315へ。